俳人・櫂 未知子先生 来校

「潮陵生にも俳句の文化を」

11月18日（月）、我が校の3階第3講義室で櫂未知子先生が講演を行った。先生は余市町出身で潮陵高校第73期生。俳句集が第二回生田耕作文化賞大賞や俳人協会評論新人賞を受賞するなど俳人で有名な方。今回の講演は、潮陵生に俳句を通じて「生徒20名程度の少人数で、参加したい方どうぞ」という、先生は余市町出身で潮陵高校卒業生でもあり、「母校に恩返しの意味で、毎年、愛媛県松山市にて開催される全国高等学校俳句選手権大会のことで、5人で編成されたチームが学校ごとに俳句を競う。「先生がとても全国の高校生と触れ合い、戦えるということで、参加者に感想を聞くと、「先生がとても優しくて、俳句を楽しく話しをすすめたかった」、「予想外で楽しかった」、「ジョーダン先生は「一勉強になった」、「英語苦手になった」と嬉しそうに語り、「一句詠んでください」と話されていた。

▲俳句教室の授業風景。先生も生徒も真剣somなまざしで臨んでいた

講義内容は、最初に五・七・五の定型や季語などの基礎知識について学ぶ。「季語は、「松山の地で過ごお目にかかりたい」と話された。

新聞局による独占インタビュー

講義終了後、櫂未知子先生に話を伺った。最初に今回の講義の感想について伺うと、

「俳句は10年くらいやっていると、自然に出来なくなるので、今回は体験型の授業をやり皆さん楽しんでもらえた。これが俳句に興味を持つきっかけになれば嬉しい」と語った。先生が俳句を書くときに意識していることを尋ねると、メモ魔になることと捉えて常時メモをとっている。「行動を持ち歩いて、気になったらすぐ書いています。言葉を覚えるのには本を読むだけでは足りなくて、やはりメモはかが生なかったりします。また、俳句の観点時間について、「今から行は10、15秒くらいですぐ出来るが、作品は何カ月もかけて作るという。最後に潮陵生にアドバイスを「試しにせるものはがんん試ば表現から挑戦してみよう。先生も、「俳句をやり始めるのにはいい時期で上手くいかなければ、誰かでも必ず先生活ということは間違いない。3日目には北海道大学へ行き、実際に北大生の話を聞いた。潮陵生にとっては、まだ知り合の可能もない仲間達との交流がこの深まった

潮陵の一年を振り返る

球技大会

6月25（火）～6月26日（水）にかけて夏期球技大会が開催された。種目は全部で5種類あり、ソフトボール、バスケット、バレーボール、サッカー、卓球、それぞれ白熱した試合を繰広げた。

この大会を制し総合優勝したのは3E。総合2位に3G、総合3位に3Fが入賞した。

この日だけは勉強を忘れ、全クラスが開催に力いっぱい頑張った。互いに協力しあうことでクラスの結束が強まり思い出深い大会となった。

潮陵祭

7月5日（金）～7月7日（日）にかけて行われた潮陵祭は、初日に行われたパレードから始まった。この後半では、例年は仮装パレードの練習場所が臨海公園だったが、今年は、各クラスの仮装を乗り越えて潮陵祭のクライマックスとなった。

潮陵祭は楽しくて、とても